

# 議 事 録

会 議 名	第43回 宇都宮市環境審議会 議事録	
開 催 日 時	令和4年7月15日(金) 午後2時 ~ 午後3時	
開 催 場 所	宇都宮市役所 本庁舎14階 14A会議室	
出 席 者	環境審議会 委 員	今野哲也委員, 菅野大造委員, 内藤良弘委員, 郷間康久委員, 青木章彦委員(会長), 横尾昇剛委員, 加藤彰委員, 新井有明委員, 佐藤俊伸委員, 篠崎務委員, 大須賀勇貴委員, 赤石澤亮委員(副会長), 遠藤廣委員, 古澤勝司委員, 佐々木清二委員, 山内祥輝委員
	欠 席 者	桂木奈巳委員, 近澤幸嗣郎委員, 木村由美子委員, 岡元輝委員
	事 務 局	環境部長, 環境部次長, 環境政策課長, 環境政策課課長補佐, 環境政策課職員7名
公開・非公開	公開	
傍聴者・記者	傍聴者0名, 記者1名	
会議概要	1 開会 2 審議事項 (仮称)宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ(素案)について 3 その他 書面による意見提出について 議事録の確認依頼について 4 閉会	

## 発言要旨

会長	(仮称)宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ(素案)について, 事務局より説明をお願いします。
事務局	— 資料に基づき説明 —
会長	(仮称)宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ(素案)について, 委員の皆様から御意見をいただきたい。
委員	CO2排出量の数値は実態を表した数値なのか, それとも推計値なのか。 CO2削減の考え方について, 県のロードマップでは, かなり電力のCO2削減係数の削減効果に頼っているが, 市や市民が削減に取り組んで下がった部分と, 削減係数で下がる部分の考え方はどう考えているか。

事務局	<p>温室効果ガスはあくまで推計値である。実績値を確認するうえでもエネルギーの使われ方や車の台数からの推計値になっている。現状、どの施策がどのように響いているかは追い切れていない。</p> <p>毎年、温室効果ガスの排出量は推計値ではあるが公表しており、今後、ロードマップにおける主体別の振り分けと同様の手法で市民・事業者・行政に振り分けた場合に、市民由来または事業者由来のものがどれくらいになったのかは、全体としては追っていきると考えている。</p> <p>また、県のロードマップは確かに電力の排出係数によって大きく減っているところがあり、結果として大きく響く部分だと考えている。来年度以降、法定計画である地球温暖化対策実行計画を、ロードマップと整合をとる形で改定したいと考えている。その中では、国の取組によって減る部分も入ってくると思うが、あくまでロードマップにおいてはそれぞれが何に取り組むかというところに主眼をおいて記載をしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>宇都宮市独自の特性を反映させた CO2 排出量や削減効果が見えた方がより実感が湧き、チャレンジするきっかけになるかもしれないので検討してほしい。</p>
委員	<p>ロードマップの目標値について、2030年までに50%は意欲的だが、現在の地球温暖化対策実行計画の目標と異なっているため、来年度以降改訂するにあたってのスケジュールを教えてほしい。</p>
事務局	<p>令和5年度に改定ができればと考えている。全面改訂なのか目標値の置き換えのみに留めるのかは、今後検討になると考える。ロードマップの目標値と整合が図られるよう、施策の積み上げや実行計画の策定は、来年度行いたいと考えている。</p>
委員	<p>目標値の設定について、昨年のCOP26では45%削減、国は46%、栃木県は50%が目標としているが、市の50%削減はどういう設定の考え方なのか。</p>
事務局	<p>目標設定の考え方は国の「46%、さらに50%の高みを目指す」という目標との整合を図り設定したものである。</p>
委員	<p>高みを目指すとはどういった意味か。</p>
事務局	<p>2050年のカーボンニュートラルに向けて、加速化を図っていくため、2030年までにより多くの削減を図りたいという意味である。</p>
委員	<p>目標値を上げると後から修正するのが大変だと思われる。</p> <p>また、電動車への転換について、乗用車保有台数のうち16%を電動車に転換する目標としているが、現状EVで0.4%だが目標の16%はEVで目指すものなのか。</p>
事務局	<p>目標の16%はEVとPHEVを含むもの。</p> <p>2030年にEVとPHEVで16%、さらに、ハイブリッド等含めて全保有台数のうち半数が次世代自動車になっているという状態を目指すというのが、この目標設定の考え方である。</p>
委員	<p>次世代自動車の定義とはなにか。</p>
事務局	<p>EV、PHEV、ハイブリッド、FCVを考えている。</p>
委員	<p>目標を16%に設定した根拠はなにか。</p>
事務局	<p>国の経産省のエネルギー基本計画の中で掲げられている、2030年時点の目標の数値を引用している。</p>

会長	<p>目標値を高め設定する理由を整理しておいてほしい。</p> <p>リーディングプロジェクトのようなものを織り込む予定はあるのか。</p>
事務局	<p>ロードマップの脱炭素加速化プロジェクトということで、①スマート&amp;ゼロカーボンムーブ、②再生可能エネルギーの最大限導入・活用、また、③カーボンニュートラルなまちづくりということでLRT沿線エリアを脱炭素化を先行的に推進するモデル地区として推進するという3つのプロジェクトを設定し進めていく。それに必要な支援策などは、来年度改定する地球温暖化対策実行計画の中で議論する。</p>
会長	<p>国が第二次募集している脱炭素先行地域に応募して合格すれば、国の支援等も受けられるのでは。そういったものは目指さないのか。</p>
事務局	<p>第一回目に応募し、民生需要家における取組が少ないということで選定外になった。現在第二回目に向けて取り組んでいる状況。</p>
委員	<p>事業者の取組において、取組例として農業を上げているが、行政内において関係部局にどのようにプロセスを投げかけていくのか。また、様々な事業との連携の仕方やプロセスの広げ方、整理の仕方を教えてほしい。</p> <p>また、作るというテーマで、発電の仕方、自家発電の発電量は総電力の3%ほどだが家庭の努力だけでは3%を越えていけないと思うが、何か後押しはあるのか。</p>
事務局	<p>庁内でカーボンニュートラル推進本部を立ち上げており、こちらに關係部局が入っているため、そちらと連携を取りながら關係機關と調整していこうと考えている。</p> <p>再生可能エネルギーをかなり作っていかないとカーボンニュートラルの達成は難しいため、支援策も、県や国の動きを踏まえて検討していく。</p>
委員	<p>例として農業を出しているが、農業分野が頑張ればかなり進むように見えるが、その前提として大規模農業の実現やスマート農業といった多額の投資が必要になってくる。一概に小さな農家が貢献しようと思っても手を付けられない。そうなる、大規模農業のロードマップができていないと言葉だけのものになってしまうと思う。なぜ農業を例に挙げたのか。</p> <p>また、農業におけるカーボンニュートラルの政策は簡単にいくのか。また課題は何か。</p>
事務局	<p>大規模な事業者については世界的な要請の中で、自分たちの努力で脱炭素化をしていかなければ国際競争という点で生き残れないため、脱炭素化は一定進んでいくと考えている一方で、市として進めていくべき部分として、中小企業であったり、農業に着眼点を置いて資料を作成した。また、農業分野においては生産性の向上と環境の配慮は逆行するところもあるので、そのあたりは十分考えなければいけない。</p>
委員	<p>農業を例に挙げられたのは違和感がある。農業は二酸化炭素を吸収するイメージを持たれるが、決して農業分野も例外ではなく、そのため農業分野の人たちにも取り組んでほしいというメッセージと受け取った。スマート農業が流行っているが、大規模農業など設備投資ができる規模の農家でないと不可能であるし、これだけで解決できるものではない。国もみどりの戦略、有機農業と言うのは簡単だが農業分野、産業として有機農業に取り組むには相当の努力が必要。その辺は消費者との折り合いが今後の課題だと思う。それらを踏まえて、このあたりの書き方は検討してほしい。</p>
会長	<p>他の産業も並列して書く等、工夫が必要だと思う。</p>

事務局	<p>農業を取り上げた意図として、一点目は、農業も例外ではないということ。また、二点目は、カーボンニュートラルを目指すうえで温室効果ガスの排出削減と合わせて吸収も必須であり、削減と吸収でニュートラルであるという視点。みどりの食料システム戦略等でも吸収源対策としての農業という観点が盛り込まれており、これまで人為的な吸収源が管理された森林のみだったものが、農地土壌を吸収源として考える動きが世界的に出てきている。たとえば有機農業で土壌に炭素を固定することでそれをクレジット化し、それを有機農業に取り組む農家の収入のひとつにしてもらうといった取り組みが進んでいる中、2030年、そして2050年も見据えたカーボンニュートラルに向け、吸収という視点で取り上げさせてもらった。</p> <p>書き方に関しては今後調整していく。</p>
委員	<p>一つの例を挙げるより、他にもカーボンニュートラルに貢献していると気付いていない視点を何点か取り上げるといった工夫がほしい。多くの視点からカーボンニュートラルに貢献できるということを紹介してほしい。</p>
委員	<p>今回の資料は誰のためのもの、誰に見てもらおうものなのか。</p>
事務局	<p>市民の皆さん全員に見てもらい取り組んでもらうための資料。</p>
委員	<p>市民の皆さんに何をしてほしいのか、何からするべきか分かりにくい。最初にやってほしいことを書いてほしい。</p>
事務局	<p>市民に何をしてほしいかの明確性に欠けるため工夫していきたい。</p>
委員	<p>我が事として捉えてもらえるように工夫をすると良い。実践に移しやすいよう分かりやすく伝えていく。例えば季節ごと、月ごとに「今月は何かをやってみましょう」と、やってほしいことを示すなどもありだと思う。</p>
事務局	<p>今回はロードマップということで全体的に示しているが、これから実践行動に取り組んでいただくにあたって、出前講座や周知を行っていく中で、分かりやすく伝わりやすいものになるよう、工夫をしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>市民向けのものを作成するにあたって「カーボン」や「ニュートラル」といった意味が分かりにくい言葉を使うのではなく、子どもから高齢の方までが分かる簡単な言葉を使ったものを作ってほしい。</p>
会長	<p>子ども向けの冊子を作る等みんなが取り組めるようにしてほしい。</p> <p>以上で、議事を終了する。</p>

以下、書面による意見（～7月20日（水）まで受付を実施）

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民・事業者・行政 各々の取組において、どうしたら、温室効果ガスの削減になるのか？具体的な取組を示したほうが良いと思う。</li> <li>・年度別の目標項目、目標値の設定を示したほうが良いと思う、自分たちの取組が進んでいることが分かることで、意識も高まると思う。</li> <li>・市民向け（一般、子ども、高齢者）周知</li> <li>・事業者向け（業種別にできればより良い）周知</li> <li>・行政は特に積極的に推進をし、リードしていく為、より具体的な目標を提示していくべきである。</li> </ul>
----	---

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体別の具体的な取組については、ロードマップ内において、その削減効果や費用感などと合わせて可能な限り具体的に示していけるよう工夫をする。</li> <li>・現時点で、年度別の目標等を細かく設定することは難しいと考えているが、各主体の取組の成果が見えにくい点については本市としても課題であると認識している。市民・事業者が意欲的に取り組めるような手法を検討していきたい。</li> <li>・市民・事業者に対する周知については、今回策定するロードマップを基本として、広報紙やホームページ、ラジオや市が行う出前講座等あらゆる機会を活用しながら、対象者の年代やライフスタイル等に応じて効果的に発信していきたいと考えている。</li> <li>・行政は、一事業者として率先垂範を示すべく、今回ロードマップに掲げる75%という野心的な目標の達成に向け、再エネ導入や公用車の電動化などに積極的に取り組むことで他の事業者をリードしていく。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のロードマップは、宇都宮市民に向けて今後の脱炭素社会へ向かうための指針のようなものだと言った。全方位的にとてもよくまとまっていて素晴らしいと思う。</li> <li>・このような指針を受けて市民が自分で出来ることを考え実行できれば良いが、現実にはなかなか難しいのではないかと。教育現場、職場、様々なコミュニティへどのように広げ、理解して頂き、実践して頂くかが大切。</li> <li>・ただ、今後もし、景気後退、スタグフレーションに陥ることになると、脱炭素なんて関係ないといった事にも陥りかねない。世界が平和で、極端な自国優先主義に陥ることなく互いに助け合うことが出来ればカーボンニュートラルへの道も見えてくるのかもしれない。ただ、先進国だけが今まで好き放題にやってきて途上国へ厳しい要求をするのはおかしいこと。現実には厳しそうである。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御指摘のとおり、いかに実践して頂くかが最も重要であり、今回のロードマップについてはまさにそこに主眼を置いて策定を進めている。昨今、社会情勢も不安定ではあるが、カーボンニュートラルは世界共通の喫緊の課題であるという認識のもと、また、カーボンニュートラルが必ずしも我慢を強いるものではなく、経済成長や生活の質の向上と両立させながら取り組んでいくべきものであるというところを重視しながら、周知啓発に取り組んでいく。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市が目指す、「カーボンニュートラル」の実現に向けて、自治会連合会においても積極的に取り組んでいきたい。</li> <li>・素案については、市民が理解をするには少し難しい内容である。</li> <li>表記については、誰もが理解ができるような工夫が必要ではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境配慮行動の広がりといった観点から、自治会における地域のつながりは非常に重要であり、大変心強く感じる。</li> <li>・多くの人にとって分かりやすく、取り組みやすい内容となるよう、難解な用語は注釈をつけるなど工夫をする。</li> </ul>